

遊びが学び、学びが育ちにつながる ～子どもが主体となる保育～

太子町立幼稚園

園の教育目標

一人ひとりと向き合い 心でつながり ともに高めあう 子どもの育成

育てたい子どもの姿(願い)



向き合う力

自分を知り、
考え、やり抜く子



高める力

挑戦し、
自信をもって
取り組む子



つながる力

人との関わり、
思いやりをもって
行動する子

ねらいと(子どもの)ねがいをつなぐ保育活動

大人が子どもの姿を明確にし、日々の保育環境を整えることで、ねらいと子どものねがいがつながる保育をめざした。

大切にしていること

憧れはベクトル

「～たい」が心に生まれる環境と工夫のある保育



安心できる
環境



遊びで学ぶ



失敗で学ぶ



チーム活動、「憧れ」にふれる環境と工夫

異年齢たてわり集団による活動

年間を通した活動により、成長と変化を促す

子どもが主体となり、迷い・考え・判断・実行する

栽培活動・チームランチ・リレー・持久走と日常活動





実践の流れ・年間の取り組み



STEP 1

安心する

友達との関わりを通して、安心して自分の思いを表現できる環境をつくる。



STEP 2

見つける

遊びや自然との出会いから、「やってみたい」「知りたい」を見つける。



STEP 3

やるみる

興味や気付きを遊びにつなげ、試したり工夫したりしながら遊びを広げる。



STEP 4

つながる・深める

友達との対話や協力を通して、思いや気付きを共有し、学びを深める。



3歳児の取り組み

安心して遊ぶ環境づくり

教職員は子どもが困ったときに友達と助け合えるよう支援をしながら「なかまづくり」をすすめ、一人ひとりが安心して過ごせる環境づくりを大切にしています。譲り合わないと思えない数の道具や一人では扱えない大きさの道具を用意することで、自ずと友達と関わりながら遊ぶ環境を構成しています。安心して遊べるようになると、友達と道具を共有して水や泥の感触を味わいながら泥んこ遊びをしたり、複数人で協力して大きなバケツで水を運ぶ姿も見られました。



4歳児の取り組み

友達と考え、対話しながら世界を広げる

「ダンゴムシを育ててみたい」という子どもたちの興味から始まった活動は飼育だけでなく、ダンゴムシのレストランへと発展し、ダンゴムシの生活や気持ちを想像しながら遊びを楽しみました。チームでの飼育では、「何を食べるのかな」と友達と話し合い、家庭から野菜の皮を持ち寄る姿や、「うんちが四角い」と発見を共有する姿が見られました。教職員は子どもたちをさりげなくつなぎ、友達と一緒に考え、試し、確かめる楽しさや共に学ぶ喜びを味わえるよう援助しました。



5歳児の取り組み



カレーパーティーまでの『あしあと』～子どもの「やってみたい」が学びにつながる～

「年長組になったら自分たちがカレーパーティーをするんだ」という子どもたちの憧れや願いが、活動の出発点となりました。その思いは、野菜の栽培・収穫・販売・買い物・クッキングへとつながり、一つ一つの活動の中で、目的をもちながら考えたり工夫したりする姿へと広がっていきました。野菜の販売では、はかりを使って重さを比べたり、袋詰めの数や量を考えたりしました。看板作りでは、お客さんに何を伝えたらよいかを考え、文字や絵を工夫するなど、必要感のある中で数量や文字に親しみました。買い物では、「何が必要だろう」と子どもたち自身が課題を見つけ、必要なものを共有したり、友達と相談しながら役割を決めたりして活動を進める姿がみられました。また、一連の活動を通して地域の方々や身近な人と関わり、多くの人に支えられていることにも気づいていきました。子どもたちは、自分の気づきや願いを伝え合いながら、友達と力を合わせて思いや考えを形にしていくことの楽しさや達成感を味わっていました。